



## 2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年11月10日

上場会社名 株式会社 エンチャー

上場取引所 東

コード番号 8208 URL <https://www.encho.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 遠藤 秀男

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営企画室長 (氏名) 奥野 孝 TEL 0545-57-0850

四半期報告書提出予定日 2022年11月11日 配当支払開始予定日 2022年12月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	18,321	3.2	165	64.3	68	82.3	198	
2022年3月期第2四半期	18,924	5.3	464	45.6	385	49.9	277	56.6

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 239百万円 ( %) 2022年3月期第2四半期 244百万円 ( 66.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	29.06	
2022年3月期第2四半期	40.56	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	36,216	9,494	26.2	1,388.46
2022年3月期	36,243	9,802	27.0	1,433.55

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 9,494百万円 2022年3月期 9,802百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		10.00		10.00	20.00
2023年3月期		10.00			
2023年3月期(予想)				10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,340	4.9	300	57.7	130	77.6	100		14.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	6,857,497 株	2022年3月期	6,857,497 株
期末自己株式数	2023年3月期2Q	19,569 株	2022年3月期	19,569 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	6,837,928 株	2022年3月期2Q	6,837,995 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(追加情報) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響は引き続き大きく、活動制限の緩和によって社会経済活動の持ち直しに向けて動き出しを見せながらも、感染再拡大のリスクは依然として解消されず、雇用、所得環境の改善や個人消費の本格的な回復には時間を要することが想定される等、厳しい状況で推移しております。加えて、世界的な原材料価格の高騰や、急激な円安の進行が及ぼす経済への影響も重なり、先行きは一層不安定な状況となっております。

ホームセンター業界におきましては、業態を超えた販売競争が更に激化している中、原材料価格の高騰に起因する販売価格の上昇が個人消費の停滞に大きく影響しており、加えて物流費、光熱費、人件費等の店舗運営コストの上昇リスク等もあり、依然として厳しい経営環境にあります。

このような状況の中で当社グループは、生活必需品を提供する社会的なインフラとしての役割を全うし、地域の皆様の生活を支えるべく、感染拡大防止に努めながら店舗営業を継続致しました。

また、「共に学び 共に成長する 繋がる全ての人に幸せを創造する企業」を目指し、中期経営計画スローガンとして「3つの進化（伸化、深化、新化）で企業価値を高める」を掲げ、地域に根差した品揃えの最適化や専門店事業推進による「収益力向上」、事業間連携体制の強化や買物環境の向上による「集客力強化」、電子化やWEB化等によって業務効率化や労働環境の改善を図る「働き方改革」の取り組みを推し進めております。

店舗につきましては、2022年9月、静岡県富士市にアウトドアショップ「SWEN新富士Base」をオープン致しました。また、品揃え強化を目的としたホームセンター「ジャンボエンチャー豊橋神野店」の全面改装を実施した他、当年度内に予定している専門店事業の出店への準備を進めております。以上の結果、当第2四半期連結会計期間末現在における店舗数は58店舗（ホームセンター23店、ハードストック11店、ダイソー2店、ブースクエア3店、c a s a 2店、SWEN17店）となりました。

販売につきましては、ホームセンター事業において、前期に引き続いて需要のある園芸用品やペット用品は堅調に推移しましたが、「巣ごもり消費」が平常時に戻ってきたことによりDIY用品や日用品等が減少した他、天候不順の影響もあり、売上高は減収となりました。専門店事業においては、ハードウェアショップは作業工具、電動工具、作業衣料等を中心として好調に推移し、売上高は増収となりました。また、アウトドアショップは新店の寄与があったものの、既存店は前期を下回り、売上高は減収となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は18,321百万円（前年同期比96.8%）となりました。利益につきましては、売上高の減少に加えて物流費、光熱費等の店舗運営コストが上昇し、営業利益は165百万円（同35.7%）、経常利益は68百万円（同17.7%）となりました。また、2022年9月に東海地方に接近した台風15号によって当社も一部店舗の敷地が冠水する等、商品、設備、備品等に被害が生じたため「災害による損失」198百万円を特別損失に計上した影響等により、親会社株主に帰属する四半期純損失198百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益277百万円）となりました。

### （2）財政状態に関する説明

#### （資産）

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ27百万円減少し、36,216百万円となりました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ72百万円増加し、13,366百万円となりました。これは主に現金及び預金の増加16百万円、商品の増加63百万円によるものであります。固定資産は前連結会計年度末に比べ100百万円減少し、22,849百万円となりました。これは主に建物及び構築物の減少112百万円、建設仮勘定の増加37百万円、投資有価証券の減少50百万円、長期貸付金の減少51百万円、繰延税金資産の増加66百万円によるものであります。

#### （負債）

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ280百万円増加し、26,721百万円となりました。

流動負債は前連結会計年度末に比べ615百万円増加し、17,129百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金の増加144百万円、短期借入金の増加187百万円、流動負債のその他の増加259百万円によるものであります。固定負債は前連結会計年度末に比べ334百万円減少し、9,592百万円となりました。これは主に社債の減少23百万円、長期借入金の減少280百万円によるものであります。

#### （純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ308百万円減少し、9,494百万円となりました。これは主に利益剰余金の減少267百万円、その他有価証券評価差額金の減少35百万円によるものであります。この結果、自己資本比率は、26.2%（前連結会計年度末は27.0%）となりました。

キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動による収入418百万円、投資活動による支出42百万円、財務活動による支出362百万円の結果、前連結会計年度末に比べ16百万円増加し、1,822百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、418百万円（前年同期比20百万円の収入増）となりました。この主な要因は、税金等調整前四半期純損失220百万円、減価償却費329百万円、仕入債務の増加額141百万円、営業活動のその他の収入207百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、42百万円（前年同期比76百万円の支出減）となりました。この主な要因は有形固定資産の取得による支出104百万円、投資活動のその他の収入66百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、362百万円（前年同期比198百万円の支出減）となりました。この主な要因は長短借入金の減少額127百万円、リース債務の返済による支出143百万円、配当金の支払額68百万円によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年11月4日の「特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」で公表致しました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,828	1,844
受取手形及び売掛金	1,025	1,028
商品	9,811	9,875
仕掛品	60	63
貯蔵品	22	22
その他	545	532
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	13,294	13,366
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,714	6,601
土地	12,335	12,335
建設仮勘定	37	74
その他（純額）	765	784
有形固定資産合計	19,851	19,796
無形固定資産	88	88
投資その他の資産		
投資有価証券	719	668
長期貸付金	587	536
敷金及び保証金	1,258	1,261
退職給付に係る資産	186	185
繰延税金資産	45	112
その他	215	203
貸倒引当金	△3	△3
投資その他の資産合計	3,009	2,964
固定資産合計	22,949	22,849
資産合計	36,243	36,216
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,953	6,097
短期借入金	8,411	8,598
未払法人税等	67	76
資産除去債務	—	14
その他	2,082	2,341
流動負債合計	16,513	17,129
固定負債		
社債	138	115
長期借入金	7,242	6,961
資産除去債務	649	646
その他	1,898	1,870
固定負債合計	9,927	9,592
負債合計	26,441	26,721

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,902	2,902
資本剰余金	3,435	3,435
利益剰余金	3,228	2,961
自己株式	△17	△17
株主資本合計	9,549	9,282
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	167	132
退職給付に係る調整累計額	85	79
その他の包括利益累計額合計	252	211
純資産合計	9,802	9,494
負債純資産合計	36,243	36,216

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	18,924	18,321
売上原価	13,341	12,934
売上総利益	5,583	5,386
営業収入	574	608
営業総利益	6,158	5,995
販売費及び一般管理費	5,693	5,829
営業利益	464	165
営業外収益		
受取利息	6	5
受取配当金	13	14
受取事務手数料	6	6
その他	7	3
営業外収益合計	33	29
営業外費用		
支払利息	54	58
シンジケートローン手数料	51	47
その他	6	20
営業外費用合計	112	126
経常利益	385	68
特別損失		
減損損失	—	59
店舗閉鎖損失	—	30
災害による損失	—	198
特別損失合計	—	288
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	385	△220
法人税、住民税及び事業税	110	26
法人税等調整額	△2	△48
法人税等合計	107	△21
四半期純利益又は四半期純損失(△)	277	△198
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失(△)	277	△198

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	277	△198
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	△35
退職給付に係る調整額	△40	△5
その他の包括利益合計	△32	△41
四半期包括利益	244	△239
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	244	△239
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	385	△220
減価償却費	337	329
減損損失	—	59
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△57	0
受取利息及び受取配当金	△19	△19
支払利息	54	58
為替差損益(△は益)	△0	△2
売上債権の増減額(△は増加)	△50	17
棚卸資産の増減額(△は増加)	△195	△65
仕入債務の増減額(△は減少)	396	141
未払消費税等の増減額(△は減少)	△75	△73
その他	△37	207
小計	736	431
利息及び配当金の受取額	13	14
利息の支払額	△53	△57
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△298	29
営業活動によるキャッシュ・フロー	397	418
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△181	△104
敷金及び保証金の差入による支出	△6	△4
敷金及び保証金の回収による収入	2	0
その他	66	66
投資活動によるキャッシュ・フロー	△119	△42
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	90	211
長期借入れによる収入	976	976
長期借入金の返済による支出	△1,384	△1,314
社債の償還による支出	△23	△23
リース債務の返済による支出	△137	△143
自己株式の増減額(△は増加)	△0	—
配当金の支払額	△81	△68
財務活動によるキャッシュ・フロー	△561	△362
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	3
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△283	16
現金及び現金同等物の期首残高	2,084	1,806
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,801	1,822

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(台風被害による損失の発生)

2022年9月23日、東海地方に接近した台風15号によって静岡県中部地区を中心とした地域が大雨に見舞われ、当社におきましても、静岡市清水区に立地するホームセンター「ジャンボエンチャー清水鳥坂店」の敷地が冠水する等、一部店舗の商品、設備、備品等に被害が生じたため、「災害による損失」198百万円を特別損失に計上致しました。なお、本件被害による商品、設備、備品等の損害については、その全部又は一部について、加入している損害保険の適用を受けることを想定しておりますが、当該受取保険金額は現在未確定であるため、保険金収入は計上しておりません。